



# ふるコンだより

発行責任者  
宇部市ふるさとコンパニオンの会  
会長 脇 彌生

2017年10月1日～11月26日、第27回UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)が行われました。市内、県内はもとより、県外からも多数の来場がありました。今年は明治維新150年の特別企画として、「古地図を片手にまちを歩こう」が県内各地と島根県益田市で行われています。宇部市でも「JRふれあいウォーク」「てくてくまち歩き&ときわ公園」と共に引き続き展開しています。今年も乞うご期待。2017年下半年から2018年初春までを、振り返ってみました。

## 渡辺翁記念会館 ・・・開館80周年記念事業

**渡** 辺祐策(すけさく)翁は、学校や病院の設立に尽力し、炭鉱経営のみでなく新しい工業を興し、また相談事にも親身になって耳を傾けたことで「宇部の神様」として多くの人に慕われました。

昭和9年に亡くなれると、翁の遺徳を偲ぶため、翁が関わった沖ノ山炭鉱、宇部窒素工業、宇部セメント、宇部鉄工所、宇部紡績所、新沖ノ山炭鉱、宇部電気鉄道が出資した記念会館が昭和12年(1937)に完工しました。



渡辺翁記念会館のロビー

2017年は、ちょうど80周年の節目の年にあたることから、「渡辺翁記念会館開館80周年記念事業実行委員会」が立ち上がり、翁の生誕日6月26日に併せて、リレートークが行われ、8月は親と子の建築講座、9月には村野藤吾建築模型展、シンポジウム、建築物巡りなどが繰り広げられました。

私たちがガイドした「村野藤吾建築巡り」には、県外からの参加者もあり、宇部志立市民大学文化学部の受講生を含め、80名以上を4つのグループに分けて渡辺翁記念会館、文化会館、宇部興産ビルの3ヶ所の普段見られない場所の見学も行いました。

改めて村野建築の素晴らしさを実感していただきました。

## 第27回UBEビエンナーレ (現代日本彫刻展) こぼれ話

第27回UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)が開催されました(2017年10月1日～11月26日)。

外国人女性初の大賞受賞者は「remember-ube」韓国出身の金景賢(キムキョンミン)さん。

宇部興産株式会社賞は「森の掟」伊藤嘉英さん。来場者の投票による市民賞は「アフターアップル」石上和弘さんでした。



「アフターアップル」

私たちは、毎回作品の制作や設置の見学、作家さんへのインタビューを元に会期中に鑑賞される方々へのガイドを行っています。

**近**年は、海外からの出品や来場者が多くなり、私たちも宇部の彫刻が海外に広まっていると実感し、ボディランゲージを駆使しながら交流を深めています。

今回、複数の作家さんから「宇部は彫刻の聖地」とお聞きしました。

**宇**部まつりでの市民賞授賞式では、作家の石上さん(静岡在住)が宇部をお褒めいただいた後に「静岡でも富士山に登った市民は多くない。身近な大事なものを見直すことが大切」と、力説されました。

「彫刻展に是非行っていただきたい」とも、付け加えられました。

メーテルリンク「青い鳥」のように、幸せは意外と近くにあるもの。「どこへ行っても彫刻があるとは、なんと豊かな街か！」

## てくてくまち歩き・宇部にもこんなきれいな海岸線が

11月25日秋晴れの下、36名の参加者と共に東岐波ふれあいセンターを賑やかに出発。

まずは東岐波中学校を訪ね、江戸時代中期より明治初年まで5世に渡って岐波村の庄屋を務めた部坂家の寄贈による県内最大級という「大ソテツ」を見学。

その後は海岸へと向かい、山口宇部医療センター(山陽荘)へ。敷地内の広大な草原の眼下に広がる周防灘、入り江を挟んで日の山、沖には竹島、更には秋穂から防府へと続く山々の眺望を満喫し、波雁ヶ浜の古尾八幡宮へ。



山陽荘敷地内

県内で松林が残っているのは、光市の「虹の松原」と、ここ「波雁ヶ浜」しかないとのこと。昔のような白砂青松とまではいかないものの、絶滅していた松露を再生させようと活動されている人たちや、珍しい樹容の「羽衣の松」を守る運動をされている方々に思いを馳せながら、波雁ヶ浜製塩遺跡、花ヶ池須恵器窯跡を回って、東岐波ふれあいセンターへ無事に戻って来ました。

参加者アンケートでは、「信号が少なく景色の好い所を気持ちよく歩けました。地元なのに新しい発見が沢山ありました」「良いコースだった」等、ご好評をいただきました。

**幕末の白から黒へ政策転換の痕跡を歩こう**

9月30日のてくてくまち歩きは、白色の塩から黒色の石炭へ政策転換した痕跡を探しに、原ふれあいセンターを起点とした原～妻崎地区を巡るコースで実施しました。

**原**ふれあいセンター駐車場付近の塩田跡から第2雀田炭鉱入口、現在も名残のある炭鉱住宅、厚東川の蟹塚、一銭渡し場跡などを巡り、石炭の積み出しや販売を管理した石炭会所跡を通過しての約4kmの行程です。

快晴の中、参加者は、ガイドの話に熱心に耳を傾けられていました。



蟹塚 妻崎神社お旅所

残念ながら、当時を偲ばせるものはほとんど残っておらず標柱頼りですが、普段何気なく通り過ぎている風景が実は宇部の歴史の宝庫なのです。そう知ってから見る風景は、これまでと全く違うものに見えて、とても新鮮でした。

**須佐で「古地図を片手にまちを歩こう」研修**

11月28日、ふるコン会員は『古地図を片手にまちを歩こう』の須佐武家町コースに参加しました。

**須**佐は萩藩永代家老の益田氏の本拠地で、益田館(現在は須佐歴史民俗資料館)を中心として整然とした町割りが残っています。



松崎八幡宮:案内は吉田館長

宇部の福原元憫、国司親相と共に禁門の変の責任を負った益田親施をまつる笠松神社、石州街道、郷校の育英館跡、歴代の当主が参勤交代から帰国の度に奉納した石灯籠が並ぶ松崎八幡宮、益田家の菩提寺だった大藪寺、須佐湾を見下ろす益田家墓所などを巡りました。

須佐公民館の吉田館長の参加者を引きつける話し方や補助資料の見せ方がとても参考になりました。

**上宇部中学校・・・総合学習**

1月16日、上宇部中学校第一学年5クラスの生徒に「地域に学ぶふるさとカルタ作り」として、会員5名が、それぞれのクラスで講義を行いました。

カルタの読み札44枚を作成する準備のため、常盤湖、教念寺、黒岩観音、道重上人、琴崎八幡宮、梶返天満宮、桃色レンガ、塩田川、真締川、宇部小学校跡など校区に関わる史跡、人物について、分かりや

すく話しました。

生徒たちは総合学習として、班ごとにA5版の大きさに五七調の読み札と、裏に説明文入りの絵札を作った後、2月28日には、カルタに詠んだ場所を私たちのガイドで巡り、最後は全員、福原史跡公園に集合。

地域の方々と連携した環境美化活動を行いました。

**常盤湖の水源域 研修**

12月5日、私たちは上田会員の案内で常盤湖の土取、高畑、金吹のエゴに入る水路を研修しました。

常盤湖の本土手や切貫から出ていく水をたどることはありましたが、常盤池に入ってくる水を意識して見ることはなかったのに興味津々で、黒岩山周辺(スポーツ広場、黒岩観音、ココランド周辺)を歩きました。



普段、見ることのない常盤池への水路

**黒**岩山のふもとでは水路に残る石組みや石橋を見ることができました。上田会員の地質図を示しながらの説明で黒岩山の蛇紋岩の保水力と常盤湖に水を貯めるための先人の知恵と努力を実感しました。

**てくてくまち歩き & ときわ公園 明治維新 150 年特別企画、JR ふれあいウォーク**

3/18(日)	9:50 琴崎八幡宮バス停集合	明治維新 150 年	古地図を片手にまちを歩こう(西コース)
3/24(土)	9:30 宇部空港国際ターミナル前	てくてくまち歩き	則貞から岬(見崎)、江戸期の海岸線を歩く伊能忠敬測量隊の海岸線と3つの亀とは？
4/1(日)	9:50 琴崎八幡宮バス停集合	明治維新 150 年	古地図を片手にまちを歩こう(東コース)
4/8(日)	9:50 琴崎八幡宮バス停集合 13:00 解散 (軽食バザーあり)	てくてくまち歩き	宇部の維新 150 年 (福原まつり開催日) ~福原越後公ゆかりの地を歩こう
4/15(日)	9:50 琴崎八幡宮バス停集合	明治維新 150 年	古地図を片手にまちを歩こう(東コース)
5/6(日)	9:50 琴崎八幡宮バス停集合	明治維新 150 年	古地図を片手にまちを歩こう(西コース)
5/19(土)	9:20 霜降山管理道ゲート手前	てくてくまち歩き	上を向いて歩こう
5/20(日)	9:50 琴崎八幡宮バス停集合	明治維新 150 年	古地図を片手にまちを歩こう(西コース)

**■申し込み、お問い合わせ**

てくてくまち歩き、  
明治維新 150 年特別企画

宇部市観光推進課

TEL(34)8353 FAX(22)6083

